

## 子どもたちの学びと進学支援 学力向上と奨学金制度の充実

【小中学校の学力向上と数学検定の導入】市の学力調査では、小学生は全国平均と同等またはそれ以上の成果を上げていますが、中学生では数学と英語で全国・県平均を下回る傾向が見られました。市では授業改善や家庭学習の支援を進め、AIドリルを活用した個別最適化学習、放課後に行う「学びアップ教室」などを通じて、学力の底上げに努めています。この教室には多くの生徒が参加し、基礎力の定着や学習意欲の向上に成果が見られています。また、小6と中2の児童生徒には英語検定（英検）の受験料を全額補助し、目標を持って学ぶ姿勢を育んでいます。

崎尾は、数学は「積み上げて理解する学問」であり、学年ごとの評価では習熟度を十分に測れないと指摘。理解の深さを客観的に把握できる「数学検定」の導入を提案しました。検定は点数を競うためではなく、努力の過程を可視化し、自信と挑戦心を育てることを目的としています。さらに、英検と数検を併せて活用することで、教員が指導内容を分析・改善できるようになるなど、教育の質の向上にもつながると述べました。

教育委員会は、現時点では英語教育を重点としているものの、数学検定の導入を含め、今後の学習支援策の検討を進めていくと答弁しました。

> 学年ではなく「理解の深さ」で見る教育へ。努力を認め合う文化を育て、子どもたちが自信を持って学びに向かえる環境づくりを進めます。

【奨学金制度の見直しと給付型奨学金の創設】進学希望者が増える一方で、家庭の経済的負担が課題となっています。崎尾は「夢を諦めないための支援策」として、奨学資金制度の見直しを提案しました。貸付型だけでなく返還不要の「給付型奨学金」の導入を求め、地域で学び、地域で活躍できる若者を支える仕組みづくりが必要であると訴えました。

令和7年度から新たに「みどりの給付型奨学金」が事業化され、高校・高専生には10万円、専修学校・大学生には20万円を入学準備金として支給し、年間の予算上限を140万円と設定。今後も対象拡充を視野に入れ、進学支援の継続強化を図ります。

> 経済的理由で夢を諦めないまちへ。奨学金を「負担」ではなく「未来への投資」と位置づけ、誰もが学ぶ機会を得られる日田市をめざします。